

第5章 研究の成果と課題

不登校やいじめ、暴力行為等の生徒指導上の諸問題の未然防止を図るために、集団や個人に対し、どのように課題等を見付け出し、どのように働き掛けたらよいかなど、生徒指導の在り方についてまとめることができた。一人一人の児童生徒の自己変容、自己成長を促すためには、個々に応じた働き掛けが必要であり、児童生徒理解が不可欠であることを再認識した。

そこで、教師の児童生徒理解を深めるツールの一つとして「学校楽しいーと」を開発した。「学校楽しいーと」は、学校における適応感を6観点に絞り、レーダーチャートにより可視化することで、瞬時に児童生徒の状態を把握し、指導・援助の方針を立てることを可能にした。また、実態調査を行い、「学校楽しいーと」による本県の各学年の6観点における平均、分布を示すことができた。さらに、「学校楽しいーと」の結果から、指導・援助の方針に基づく教師の働き掛けについて、モデル及び実践例を示すことができた。

本研究では、「学校楽しいーと」を活用した生徒指導の取組が、児童生徒が自己実現を図っていくための自己指導能力の育成に寄与するという一定の成果は得られたと考える。

今後の課題としては、「学校楽しいーと」の結果を児童生徒へフィードバックする際の方法について研究を進めていかなければならない。

そのためには、小、中、高の各校種からデータをより多く収集・蓄積し、本県の特徴や傾向について更に明らかにするとともに、校種間連携における「学校楽しいーと」の有効な活用方法についても研究を深めていく必要がある。

おわりに

今後、「学校楽しいーと」が児童生徒理解のきっかけとなり、各学校の工夫により、効果的、継続的に活用され、生徒指導の一層の充実のための一助となることを願う。

最後に、本研究を進めるに当たり、「学校楽しいーと」の調査に御協力いただいた各市町村教育委員会や各学校、実践事例を提供していただいた研究協力員の先生方、また、「学校楽しいーと」の作成及び結果分析に際し、御指導や御助言をいただいた鹿児島大学教育学部附属教育実践総合センター並びに学校教員養成課程心理学専修の先生方に心からお礼を申し上げたい。

【引用・参考文献】

- | | | |
|---------|---|----------------|
| 文部科学省 | 『生徒指導提要』 | 平成22年3月 |
| 文部省 | 「学校における教育相談の考え方・進め方
生徒指導資料第21集・生徒指導研究資料第15集」 - 中学校・高等学校編 -
平成2年3月 | |
| 文部省 | 「生活体験や人間関係を豊かなものとする生徒指導
- いきいきとした学校づくりの推進を通じて -
生徒指導資料第20集・生徒指導研究資料第14集」 - 中学校・高等学校編 -
昭和63年3月 | |
| 文部省 | 「生徒指導の手引」 | 昭和56年 |
| 國分康孝監修 | 「エンカウンターで学級が変わる Part 3」 | 平成元年11月 図書文化 |
| 坂本昇一監修 | 「実践生徒指導3 自己指導能力を育てる」 | 平成6年9月 ぎょうせい |
| 國分康孝監修 | 「ソーシャルスキル教育で子どもが変わる 小学校」 | 平成13年1月 図書文化 |
| 大野太郎ほか編 | 「ストレスマネジメント・テキスト」 | 平成14年6月 東山書房 |
| 藤原忠雄編 | 「学校で使える5つのリラクゼーション技法」 | 平成18年 ほんの森出版 |
| 諸富祥彦ほか著 | 「学級づくりと授業に生かすカウンセリング」 | 平成23年10月 ぎょうせい |